

大カブのカルテック施肥例

(10アール当り)

地力作り	<p>なるべく早めに。播種までに30日以上おいて下さい。</p> <p>※ラクト・バチルス菌の添加により、土中の堆肥・有機物は未熟状態から醗酵状態に変わり、カブの品質を良くします。カブの作付け前に堆肥を投入できますが、30日以上(なるべく60日)間隔をおいてください。</p> <p>※右記を散布して、深く耕して下さい。</p>	<p>堆肥 2トン (なるべく多く) ※完熟堆肥なら、安全ですがエネルギーに乏しいので、4トン。 ※堆肥を投入しない場合は 米ヌカ60~120kg。</p> <p>ラクト・バチルス 600グラム ※堆肥を安全に土中醗酵させ、水分変動の少ない土壌にします。 ※土壌を表層から深層まで均一にします。 ※チッソ等の肥料はムラなく持続的に効くようになります。</p> <p>硫安 100kg (砂地で堆肥が乏しい場合のみ、硫酸カリ 20kg追加) ※もし通常の複合肥料を使う場合は、チッソ成分で20kg程度。</p> <p>畑のカルシウム 60kg (酸性土壌なら80~100kg) ※カルシウム栄養を豊富に供給して、ス入り防止。 ※土壌pHは表層から深さ40cmまで均一となり、pH: 6.0~6.5の範囲(高くても7.0迄)となるように調節して下さい。 5.5以下になると根コブ病のおそれがあります。(後半注意)。 ※カルシウムの施用は地力作り時にしておく、土壌深層までカルシウム豊富でpH適正となり、大きくキレイなカブが出来ます。(整地後、ウネ上への散布でも構いません。)</p>
播種時	播種の前後の灌水時	濃縮酵素液 (500倍程度) 十分に灌水(散水)します。 ※直根を一斉に強く伸ばし、土壌病害・連作障害にも強くします。
第1回間引き後	播種後10日頃(本葉始め)に第1回間引き。その後、ウネ中央を軽く中耕(除草)。この時	濃縮酵素液 500倍 葉上から灌水(散水)…根を伸ばし 生長促進 ※特に芽の伸びが悪い部分には シッカリ染み込ませる。 ※この時はチッソ肥料を施さないこと。もし肥切れならば アミノ酸液 を 500倍で 葉上から散布。
本立て後の追肥	本葉4~5枚で第2回間引き。 播種後30日頃、本葉7~8枚で第3回間引き = 本立て。 ウネ肩を中耕・土寄せ。この後に…	中耕・土寄せ時には チッソ等の肥料を施さない 。 濃縮酵素液 500倍 葉上から散布、根を強く動かすのが大事。 <u>土寄せ後5日ほどして、根が伸びているのを確認してから</u> 硫安 20kg ※ただし 土壌EC: 3.0あれば 不要 (硫安は30kgまで。状態により 畑のカルシウム併用)
追肥	播種後45日頃 (収穫45日前頃)	硫安 40kg (品質向上のため硝酸は使わない) 畑のカルシウム 30(~40)kg … 肉質を良くし、過熟防止 ※ウネ肩の下部に、同時に散布します。
葉面散布 <適宜>	特に本立て後と、 収穫前15日頃	カルテックCa液状 500倍 葉面散布…転流・充実促進 チッソ過多を抑える。軟腐・黒斑細菌・べと病も抑える。

【品種】 聖護院カブ系

【主な用途】 千枚漬け加工用

【作型】 秋播き・秋冬穫り露地栽培、夏播き寒冷紗栽培(冷涼地)